

姫路市史 第十五卷 下

別編 文化財編2

監修 神戸大学名誉教授

八木哲浩

文化財編2の刊行によせて

古建築の資料集成として、また文化としての建築の理解のために

神戸大学名誉教授 多淵敏樹

姫路市史第十五巻 下 文化財編2（建築編）をお届けすることができるようになった。これまで多くの方々から姫路市内の建築について、詳しい資料がほしいというご要望をいただいていた。姫路城に関する書物は多いが、それ以外の寺社建築や民家・町並みは、部分的に書かれたものがあっても、まとまったものは皆無に等しい。たとえば天台宗の大寺院で西の比叡山といわれ、数多くの文化財を擁した書写山門教寺についても詳しく解説した文献はほとんどない。文化財としての修理が終わったものは修理工事報告書があるが、専門的すぎるし、それとても市立図書館に行かなければ見ることができない。このような状態のなかでこのたび刊行する文化財編2（建築編）は、姫路市の建築について資料不足を抜本的に補うものである。

この巻では、円教寺や広峯神社では棟数が多いためから指定文化財を中心に記述することになったが、従来とは異なった新しい内容を含んでいるし、江戸時代の傑僧盤珪の龍門寺では、寺が庶民の手で整備された特異な文化史的側面にも触れている。またこれまでほとんど取りあげられなかった近世以降の社寺建築では、浄土宗系寺院の本堂と村の鎮守の本殿について、悉皆に近い規模の調査に基づいて全体像を明らかにしている。また民家と町並みも市内の初めての集大成である。なかでも新しく発見された城下町の絵図（播陽姫路図）の文字の解説を加えることによって、近世都市姫路の詳細を容易に知ることができるようになった。また近代建築についても市内の遺構についての初めての体系的考察である。

このように姫路市史第十五巻 下 文化財編2（建築編）は、姫路市の建築についての唯一の資料集成である。願わくば姫路市民はもちろんのこと、建築に興味のあるより多くの方に広く活用していただければと願っている。



（書写山門教寺三之堂）

既 刊 案 内

第一回配本（昭和六十一年）

◎姫路市史第十巻 史料編 近世1 A5判 九一八頁

1 姫路藩史料Ⅰ（池田・三次松平氏時代） 2 姫路藩史料Ⅱ（酒井氏時代）
3 幕府・諸藩史料 付図（別箱） 姫路城下町絵図・解説図
頒価 六、三〇〇円

第二回配本（昭和六十三年）

◎姫路市史第十四巻 別編 姫路城 A5判 九一三頁（売切れ）

1 姫路城の歴史 2 姫路城の構成 3 姫路城昭和の大修理
4 姫路城の文学・話題 5 資料編 付図（別箱） 姫路城郭図
頒価 五、五〇〇円

第三回配本（平成元年）

◎姫路市史第十二巻 史料編 近現代1 A5判 八四四頁

明治期の1行財政と政治 2 教育 3 産業と経済 4 社会生活と文化 5 軍事等
付図（別箱） 姫路市街図、飾西・飾東郡全図等
頒価 六、二〇〇円

第四回配本（平成四年）

◎姫路市史第三巻 本編 近世1 A5判 五八六頁

幕藩体制の成立期・整備期 展開期それぞれ別の姫路
付図（別箱） 姫路城下諸町絵図集・解説図
頒価 五、四〇〇円

第五回配本（平成四年）

◎姫路市史第十五巻 上 別編 民俗編 A5判 七七九頁

年中行事 祭礼 民間信仰 人生儀礼 諸職と民具 絵馬 民謡と伝説 方言等
頒価 五、三〇〇円

第六回配本（平成六年）

◎姫路市史第十三巻 上 史料編 近現代2 A5判 九五六頁

大正期の1行財政と政治 2 産業と経済 3 軍事と教育 4 社会と文化
昭和前期の1行財政と政治 2 産業と経済 3 軍事と教育 4 社会と文化
付図（別箱） 姫路市全図・市勢要覧（大正十三年）
広島都市計画・飾磨都市計画地域指定図（昭和十三年）
頒価 六、五〇〇円

第七回配本（平成七年）

◎姫路市史第十五巻 中 別編 文化財編1 A5判 五五三頁

彫刻 絵画 工芸 石造美術
付図（別箱） 姫路市文化財分布地図
頒価 三、五〇〇円

第八回配本（平成八年）

◎姫路市史第十一巻 上 史料編 近世2 A5判 八七五頁

4 姫路町と飾方津町 5 村況の記録 参考史料 皇国地誌
付図（別箱） 姫路城下町絵図・解説図（各四点）
頒価 六、四〇〇円

第九回配本（平成十年）

◎姫路市史第七巻 上 資料編 自然 A5判 四五三頁

1 気候 2 地質 3 地形 4 土壌 5 植生・海藻 6 都市地域構造 7 街道
付図（別箱） 姫路市地形・地質図 姫路市農耕地・林地土壌図 姫路市現存植生図
姫路市土地利用図 姫路市の街道と道標図
頒価 五、六〇〇円

（送料 各巻共五〇〇円）